

9月9日は救急の日

そばに居合わせた人の救急処置で一命をとりとめる！

119番通報を受けてから、救急車が現場に到着するまでの全国平均は約8分です。当市では7分54秒かかっています。

心臓が止まってしまうような重大な事故や病気は、いつどこで何が原因で起こるかわかりません。心臓と呼吸が止まってからの時間の経過とともに救命の可能性は急激に低下します。救急隊が到着するまでの間にその場に居合わせた方が自動体外式除細動器（以下「AED」という）や心肺蘇生を行うと、救急隊が到着するまで何もしなかった場合に比べ社会復帰率は約2倍の38.2%に保たれることがわかっています。

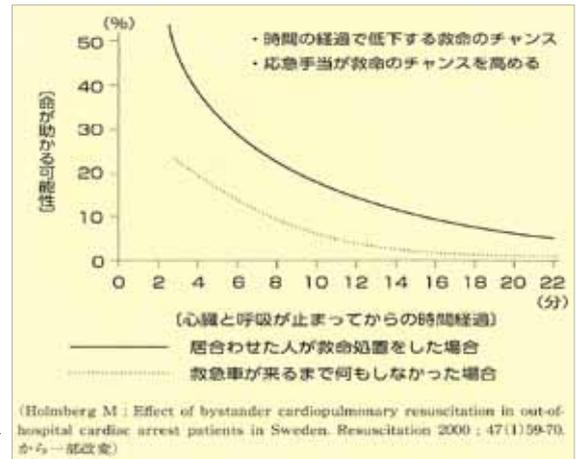
消防署救急係
☎995-0119

市民の方による救命（平成27年6月現在）

平成16年7月から皆さんが、AEDを使用出来るようになって以来、11年が経ちました。当市における過去10年間の市民によるAEDの使用状況は、AEDパッド装着が33件、AEDショック実施が7件で、社会復帰された件数が4件でした。

過去10年間で4人もの尊い命が救急隊ではなく、市民の手により救われています。

応急手当と救命曲線▶



救命の連鎖と市民の役割

傷病者の命を救い、社会復帰に導くために必要となる一連の流れを「救命の連鎖」といいます。「救命の連鎖」を構成する4つの輪が素早くつながると救命効果が高まります。



1. 一つ目の輪は「心停止の予防」成人の突然死の原因として心筋梗塞や脳卒中が多くみられます。生活習慣の改善や定期的な検診などで発症の初期症状で気づくことにより心停止の予防につながります。
2. 二つ目の輪は「心停止の早期認識と通報」突然倒れた人や呼びかけても反応しない人は、心停止の可能性のあることを認識し、大きな声で助けを呼び119番通報とAEDの手配を依頼しましょう。
3. 三つ目の輪は「一次救命処置(心肺蘇生とAED)」心臓の動きと呼吸の機能を胸骨圧迫と人工呼吸により補う「心肺蘇生」と「AED」であり誰でもすぐに行える処置。傷病者の社会復帰に大きな役割を果たします。
4. 四つ目の輪は「救急救命士や医師による高度な治療を意味する二次救命処置と心拍再開後の集中治療」です。

「救命の連鎖」の最初の三つの輪は、現場に居合わせた市民の方によって行なわれることが期待されます。市民の方は「救命の連鎖」を支える重要な役割を担っているため普通救命講習会に参加して、もしものときに備えましょう。※普通救命講習会の詳細はp20募集を確認してください。

(改訂4版 応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに) より引用